

平成 30 年度 第 3 四半期 (10 月～12 月)

# 景気動向調査結果報告

豊橋商工会議所 中小企業相談所

全産業業況 DI 値は前回調査から 1.7 ポイント改善、平成 29 年度第 3 四半期からは 7.8 ポイント悪化

## ■全業種概要

全産業の総合判断 DI 値は▲0.6 (前期比+1.7、前年同期比▲7.8)、来期見通し (1 月～3 月) について、業況 DI 値は▲6.4 (当期比▲5.8) となった。

運輸業、卸売業、製造業がプラス値となり、2 期連続で DI 値を押し上げたものの、引き続き、マイナス値という結果になった。経営上の問題点としては、引き続き「従業員の確保難」が全業種で上位を占めているほか、暖冬の影響による冬物商材の売上不振などから「需要の停滞」も上位に挙がっている。

設備投資については、「実施した」との回答が 36.7 (前期比▲1.9、前年同期比▲2.5)、来期に設備投資を「計画している」との回答は 39.7 (当期比+3.0) となった。

## ■製造業

業況 DI 値は 2.5 (前期比+6.2、前年同期比▲18.6)、来期の見通しについては▲12.5 (当期比▲15.0) となった。

自動車関連においては、国内・海外とも安定的な受注量による売上増加の声が聞かれた。一方、食品製造業では、原材料、人件費などのコスト高による採算悪化の声が聞かれた。また全般的には、米中の貿易戦争に伴う中国市場の減退等を不安視する声が挙がっている。

経営上の問題点としては、「原材料価格の上昇」、「人件費の増加」、「従業員の確保難」が主に挙げられる。

## ■建設業

業況 DI 値は 0.0 (前期比▲7.7、前年同期比▲3.7)、来期の見通しについては 3.7 (当期比+3.7) となった。

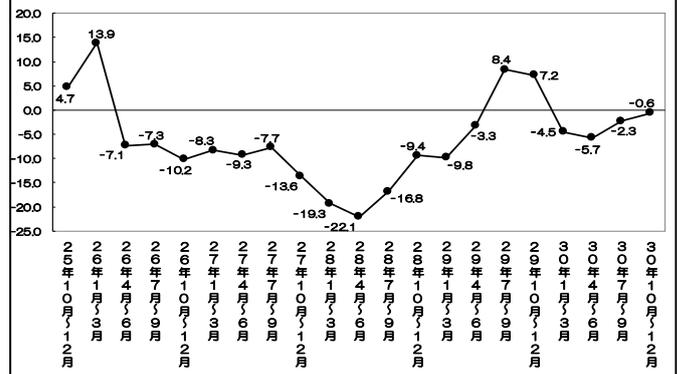
消費税の増税に伴う駆け込み需要をはじめ、民間工事の受注は好調、との声が聞かれた。一方で、仕入単価の上昇、人件費増加の影響による採算悪化や公共工事など大型案件の受注減といった、先行きを不安視する声も挙がっている。

経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、「官公庁需要の停滞」、「熟練技術者の確保難」が主に挙げられる。

## 調査概要

- 調査対象
  - (1)対象地区：豊橋市内
  - (2)対象企業数：350 社
  - (3)回答企業数：176 社 (回答率 50.29%)
- 調査期間
  - 平成 30 年 10 月～12 月
- 調査方法
  - 往復はがきによるアンケート調査
- 回答企業の内訳
  - 製造業 80・建設業 27・卸売業 21
  - 小売業 19・運輸業 13・サービス業 16

## 全業種



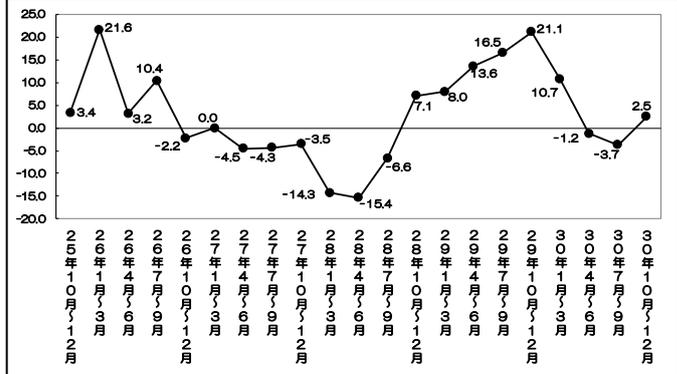
《A》 前年同期 (平成29年10月～12月) と比較した景況感

良い	同様	悪い	DI 値	
23.1%	53.2%	23.7%	▲ 0.6	↑

《B》 来期 (平成31年1月～3月) の景況見通し

良い	同様	悪い	DI 値	
16.3%	61.0%	22.7%	▲ 6.4	↓

## 製造業



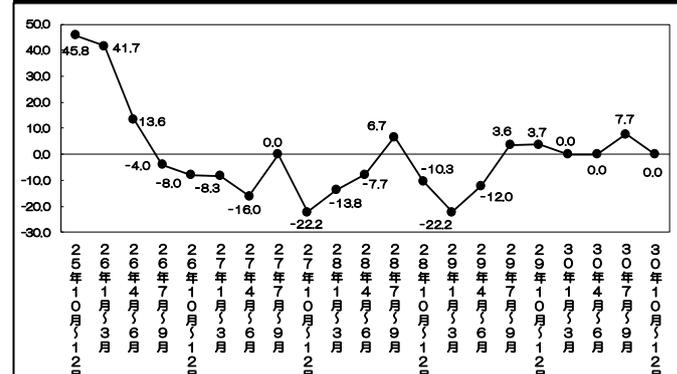
【今期の景況】 平成30年10～12月

自社の業況 2.5 ↑

【来期見通し】 平成31年1～3月

自社の業況 ▲12.5 ↓

## 建設業



【今期の景況】 平成30年10～12月

自社の業況 0.0 ↓

【来期見通し】 平成31年1～3月

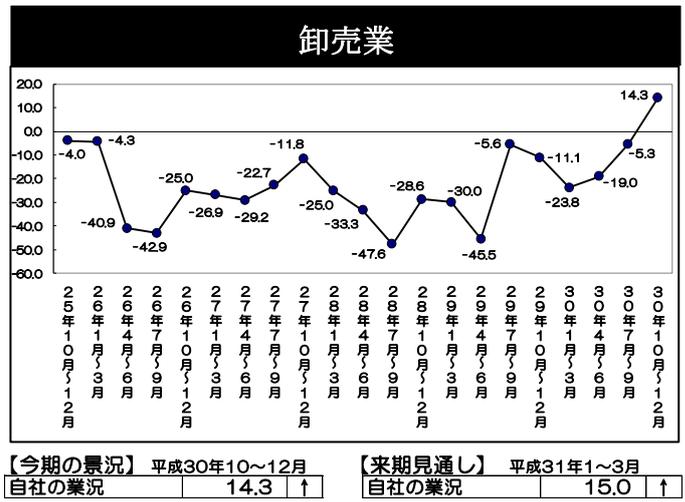
自社の業況 3.7 ↑

## ■卸売業

業況 DI 値は 14.3（前期比+19.6、前年同期比+25.4）、来期の見通しについては 15.0（当期比+0.7）となった。

建築資材卸売業では、台風特需も含めて受注が好調との声が聞かれた。また果実卸売業においても、新規取引による売上の増加など全般的に好況との声が聞かれた。来期についても収益増加を予測する声が多く挙がっている。

経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、「販売価格の低下・上昇難」、「人件費の増加」が主に挙げられる。

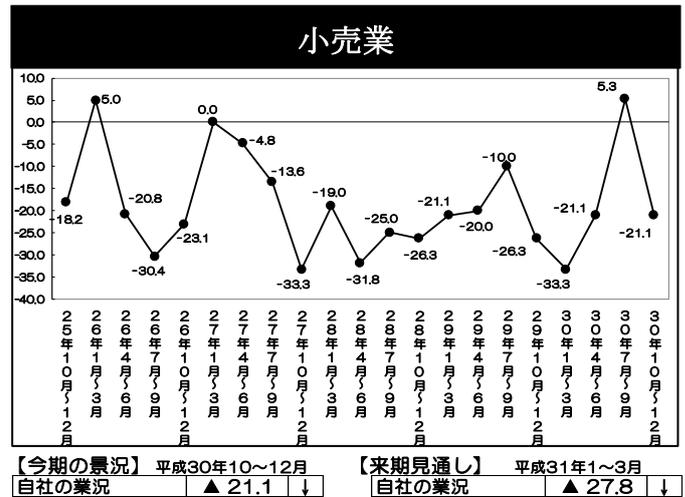


## ■小売業

業況 DI 値は▲21.1（前期比▲26.4、前年同期比+5.2）、来期の見通しについては▲27.8（当期比▲6.7）となった。

暖冬の影響で、石油販売店での加温用燃料や食料品販売業での冬物商材の売上が伸び悩んでいる、との声が聞かれた。その他、小売業全体において取扱商品の差別化が難しく、収益確保に苦しんでいる。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「消費者・製品ニーズの変化への対応」、「従業員の確保難」が主に挙げられる。

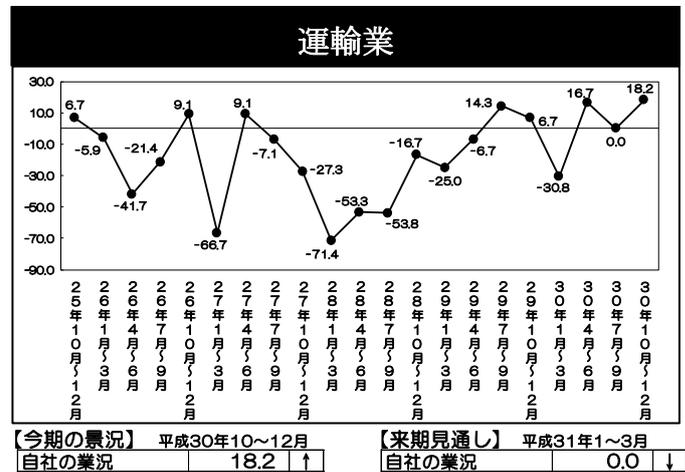


## ■運輸業

業況 DI 値は 18.2（前期比+18.2、前年同期比+11.5）、来期の見通しについては 0.0（当期比▲18.2）となった。

全般的に、軽油価格の低下や輸送量の増大などによる収益増加の音が聞かれた。一方で、暖冬の影響による加温用の燃料や野菜の出荷量に関して、不安視する音が挙がっている。

経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、「運送単価の低下、上昇難」、「人件費の増加」が主に挙げられる。



## ■サービス業

業況 DI 値は▲25.0（前期比▲6.2、前年同期比▲16.7）、来期の見通しについては 0.0（当期比▲25.0）となった。

飲食業では、依然として、消費動向が低調であり低価格傾向が強いため、顧客の囲い込みに苦戦している、との音が聞かれた。また警備業においては、仕事量はあるものの、人手不足により業務を受託できずに機会損失が生じている模様。

経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、「消費者ニーズの変化への対応」「需要の停滞」が主に挙げられる。

